

〔第3章〕

課題整理(事務局 提案)

「市立高校の魅力化
に向けた5つの重点課題」

(事務局案) 富士市立高校の魅力化に向けた5つの重点課題

アンケート調査結果（市民512件／中学2・3年生2539人）をもとに分析

市民と中学生のアンケート結果に共通して考えられること



1 地元企業や地域社会とのつながり

市民は地域企業との連携を支援し、中学生は職業接続への関心が高い。



2 資格取得や就職・進学を支える教育

普通教科による基礎学力と専門学科の実学とのバランスを支持。



3 幅広い学力層の受け入れと多様な個への対応、施設や教育資源の市民への還元



4 通学のしやすさや学習への支援（学ぶ環境の充実）

現施設や立地条件等の課題を検証。



5 学校の魅力発信

教育内容と特徴、他校との違い、進路や部活動の実績、高校生活などの発信を求めている。

1

進路に結びつく地域連携型の実学教育

市民・中学生の双方が、将来につながる学びや職業理解を強く求めています。

具体例

- 地元企業での長期的な職業体験
- 企業課題を題材にした探究
- 商品開発・地域ブランドづくり
- 医療・福祉・保育の体験学習
- 製紙・環境・防災・観光など富士市固有のテーマ
- 大学・専門学校との接続授業
- 企業人・卒業生によるキャリア講座
- インターンシップと進路指導の一体化

ポイント

「地域貢献活動」で終わらず、資格、推薦入試、就職、大学進学、職業理解に結びつけることが重要



2

普通教科を土台とした進学支援と専門教育の両立

市民は専門性を、中学生は大学進学と学力適合を重視。多様な進路に対応できる柔軟な構造を。

普通教科

（全員が学ぶ基盤）

選択・特化できる多様なコース

進学型

資格・就職型

情報・デジタル型

地域産業・ビジネス型

スポーツ・健康型

福祉・保育型

など

ポイント

- ・中学生の多くは「自分に合ったレベル別授業(50.3%)」を希望している
- ・高校で希望する学びの上位は「大学受験(43.9%)」「資格取得につながる学び(36.6%)」を重視し、PC・情報・プログラミングやスポーツ系の学びが続く



3

市立高校ならではの特色の確立と公共性

市立高校が「誰のための学校か」という存在意義に関わる重要な論点です。

議論の視点

- 市税を投じることから、市内の子どもを優先すべきかを検証
- 市外・県外から生徒を集める部活動の在り方を検証
- 地元中学生の市立高理解を深めるための取組を検証
- 競技力向上と市民還元の両立のための取組を検証
- 特定の学力層だけでなく、幅広い生徒への支援の方策を検討
- 不登校経験者や支援を必要とする生徒の受け入れの検証

今後、明確にすべきこと

- ✓ 市内生徒と市外生徒の募集方針
- ✓ 部活動整備・特別枠の考え方
- ✓ 市民への施設還元
- ✓ 生徒の多様性への対応
- ✓ 学力層・進路の幅
- ✓ 市税投入に対する成果指標

4

通学しやすさと施設環境の充実

通学のしやすさは市民で38.9%、中学生で21.4%が重視。施設・設備の充実も重要です。

中学生が魅力的だと思う施設・設備（上位）

自習スペース	45.7%
整備されたグラウンド・体育館	40.2%
空調設備	34.9%
スクールバス	33.7%
新しい校舎	29.4%
ICT 機器	26.3%

市民の自由記述で多い意見

- 駅から遠い
- 岳南電車の費用や本数
- 自転車通学の危険
- スクールバスの不足
- 移転の検討

ポイント

学校改善と同時に、交通アクセスを学校魅力化の重要課題として扱う必要があります。



5

「富士市立高校で何ができるか」の可視化

市民・中学生ともに、学校情報の不足が大きな課題です。

毎年度、分かりやすく公式すべき情報

- 各学科・コースの授業内容
- 生徒が取り組んだ探究テーマ
- 企業・大学・行政との連携実績
- 資格取得者数
- 進学先・就職先
- 地元企業への就職状況
- 卒業生の活躍
- 部活動の実績
- 生徒の学校生活
- 生徒・保護者の満足度
- いじめ・不登校・相談
- 通学手段、スクールバスの利用状況

ポイント

「探究をしている」という抽象的な発信ではなく、何を学び、何ができるようになり、卒業後にどうつながったかを示すことが必要



〔第4章〕 質疑と審議

- ◆ 会長所感
- ◆ アンケートの結果分析／課題整理と審議の進め方
- ◆ 事務局への質疑・確認等
- ◆ 審議の開始
 - (1) 事務局が示す「5つの重点課題」の妥当性
 - (2) 委員の専門的知見から見た追加・補足すべき重点課題
 - (3) 重点課題の焦点化と改善案の検討(事務局「2案」との整合性)

〔第5章〕 総括、その他

- ◆ 次回の審議会について
令和8年11月下旬()予定
- ◆ 今後の事務局と審議会との情報共有について
- ◆ その他(事務連絡等)